

鉄道線路検測器をモンゴルへ

～レールの状態を正確に測定し効率的な保守作業を実現～

国際協力機構（JICA）は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において東研工業株式会社（宮城県仙台市、代表取締役阿部浩行）が提案する「効率的な鉄道線路保守作業の導入に係る案件化調査」を採択しました。

モンゴルの鉄道施設は半世紀以上前に旧ソ連の支援で整備されましたが、ソ連崩壊後は維持管理が充分とは言えません。国民生活を支える石炭その他の物資の輸送に不可欠な貨物列車の安定した運行のため、日常的な軌道保守作業を効率的に進めていく必要に迫られています。

東研工業株式会社が製造している「メモレール」は、レール上を手押しで走行させながら高精度にレールの状態を検測できる機器で、軽量化されているため作業員1人で運搬できる簡便さから我が国の鉄道で活用されています。今回の調査では、ウランバートル鉄道の軌道関係者に対して、「メモレール」を活用して軌道の異常を早期発見し、効率的な保守作業体系を導入するための技術的助言を併せて実施します。



←レール上で検測作業中のメモレール

→メモレールの画面表示例



この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2015年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。120件の応募のうち34件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考：（プレスリリース）案件化調査2015年度第2回公示の採択結果について

URL：http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001moz9h-att/investigation_201502_result.pdf

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 東北支部 高橋(担当)

TEL 022-223-4772 e-mail: Takahashi.Hiroaki@jica.go.jp